

ネット情報 初のハッカソン開催 学生18人参加 「bot」を完成



意見を交わしながらプログラミングに取り組む学生たち

ネットワーク情報学部は6月10日から2日間、生田キャンパスで初の学生ハッカソンを行った。学生18人が参加、上級生、下級生が協力し合っ



製作したプログラムの概要を発表
……
間に集中してサービスやシステム、アプリケーションなどを開発する。初日は5グループに分かれて製作を始めた。1年次生はプログラミングに慣れていない学生が多かったが上級生が丁寧に教えていた。また、協賛したIT関連企業▽Lis b▽グッドパッチ▽Hme▽ヤフー▽インターネットイニシアティブの5社の担当者も常駐し、学生の質問に際して、技術指導を行った。宿泊場所の生田研修館でも意見交換や作業が続いた。発表会では「休講情報」を今後提供していきたい。他大学の学生とチームを組んで行うハッカソンなども面白いのでは」と話している。

撮影の心構えや実技指導

写真家が実践的講座

人文ジャーナリズム学科「報道写真論」文学部人文・ジャーナリズム学科の日本写真家協会との協力講座「報道写真論(前期14回、生田キャンパス)は、内外で活躍する写真家が講義を行う実践的講座として好評だ。

今年度の講師は、パレスチナ紛争、チェルノブイリ原発事故などを追う広河隆一さんと日本の先住民アイヌの人々の取材と撮影を25年前から続



学生の質問に答える宇井さん

も。「撮影当初から子どもで出向き、家族ぐるみ



フェルメールの作品を例に撮影指導を行った広河さんの講義

のお付き合いになった」といふエピソードも明らか

学生から撮影の心構えを聞かれ、「自分の感性を信じてシャッターを押し

者が普段何を考えているか、物事をどう捉えているかが恐ろしいほど表れ

受賞した天野公太さん

「自分が丸裸になることと人に伝えたいという思いは強い」と語った。

5月16日には広河さん

から撮影の実技指導もあ

った。学生は講義のあと

教室を出て人物撮影を行

った。小松幸男さん(2

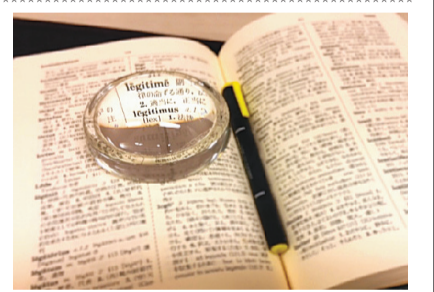
年次)は「一眼レフでの

撮影は初めてで新鮮な授

都合により写真を掲載いたしません。
紙面をご覧ください。



— 58 —
小川 浩三 法学部教授



く。こうして個別の単語の意味とつながりを明らかにしたうえで、全体として構成して、現代語訳を作る。これをラテン語学習でもおこなった。同じようにテキストを書き写し、個別の単語の性や活用を特定し、そこから単語同士のつながりを考え、意味を考える。ラテン語は、現代語と違って名詞とそれを修飾する形容詞が離れていることが多い。

しかし、性と格が分かればどんなに離れていてもつながりは理解できる。個別のものに分解し、そこから全体を再構成するというのは、およそあらゆる学問にとっての基本であろう。文法構造のしっかりした言語を学ぶことは、そうした学問的思考を一番基礎から身につけるための訓練にもなるのである。(担当は西洋法制史)
※短縮版：全文はCALL教室ホームページで

専門は西洋法制史で主たる研究対象は中世ヨーロッパの法学である。研究のための道具はラテン語である。文学部の歴史学専攻であれば学部時代から古典語を学習するのであるが、私は法学部出身であり、法学の本格的研究のためにはローマ法と取り組まねばならず、そのためにはラテン語が必須だと思いついたのは大学院に入ってからであった。最初は独学で手探りであったが、その後、当時上智大学で古典学の教授が隔週で開いていた法律家向けラテン語講義会に参加し、ラテン語を一から学習しなおすことになった。

一から学習しなおすことへの経験は、高校2年生時の古文学習にあった。教科書の文章を書き写し、その文章を個別の単語に分け、その品詞と活用を書

海外留学・国際交流フェア



ラオスの学生生活について語るブンパイさん

「海外留学・国際交流フェア」が6月24日、生田キャンパスで開催された。留学帰国学生によるプレゼンテーションや個別相談、留学生の母国紹介、国際交流会館見学ツアーなどが行われ、訪れた学生は留学や国際交流への理解を深めた。ラオス国立大学(国際

交流協定校)から特別聴講生として留学しているブンパイさんはラオス語のあいさつやラオスの学生生活について、写真を見せながら語った。

個別相談ブースでは、留学の際の準備や費用、現地での生活について質問する姿が見られた。